

大切なものを見つけるコツ

大学宗教部長

大宮 謙



新入園、新入学された皆さん、ようこそ青山学院へ。皆さんを心から歓迎します。新しい生活の中で、人生の宝だと思える大切なものが見つかりますように祈っています。

宝を見つけるヒントになればと願い、一つのエピソードを紹介します。それは、キリスト教の春の祭り、イエス・キリストの復活を祝うイースターに関連するものです（新約聖書ヨハネによる福音書 21章1節以下）。それは、こんなエピソードです。イエスの一番弟子ペトロが、ティベリアス湖（別名ガリラヤ湖）で漁に出ました。ペトロは、イエスの弟子になる前は、この湖で漁師をしていました。居合わせた6人の弟子たちも、一緒に漁に出ました。ところが、その夜は何も捕れませんでした。夜が明けた頃、復活したイエスが岸に立っていました。でも、弟子たちはイエスだとは分かりませんでした。「何か捕れたか」と聞かれた弟子たちは、相手がイエスだとは分からないままに「捕れません」と答えます。すると、イエスが「舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れるはずだ。」とアドバイスします。そこで弟子たちが網を打ってみると、153匹もの魚が捕れ（11節）、あまりの重さに網を引き上げられないほどでした。

このエピソードを踏まえ、大切なものを見つけるコツを二つお伝えし

イエスは言われた。『舟の右側に網を打ちなさい。そうすれば捕れるはずだ。』そこで、網を打ってみると、魚があまりに多くて、もはや網を引き上げることができなかった。

ヨハネによる福音書 21章1-6節（一部抜粋）

たいと思います。一つは、上手く行かなかった直後でも、誰かのアドバイスを受け入れてチャレンジしてみることです。一晩中、漁をして何も捕れなかった弟子たちは、ぐったりしていたに違いありません。そんな時に誰だか分からない人から「舟の右側に網を打ちなさい」などと言われても、「もうさんざんやってみたけどダメだったんだ」と言い返したくなるのではないのでしょうか。でも、一回チャレンジしてダメだったからと言って、二度目もダメだとは限りません。同じことにチャレンジする場合でも、タイミングによって結果は違ってくるものです。ですから、「やってみたら」と勧められた時には、「どうせまたダメだろう」と決め付けず、ぜひチャレンジしてみてください。

二つ目は、「勝ちパターン」から外れても、諦めずにチャレンジしてみることです。たとえ、あるパターンで一回上手く行ったとしても、いつでもどこでも同じことが通用するわけではありません。このエピソードに即して言えば、今回は「舟の右側」に大漁が待っていましたが、いつも「舟の右側」だけに良い結果が待っているとは限りません。たとえ「困った展開だ」と思う状況になっても、案外、思い掛けないお宝に巡り合うかもしれません。

世界を造った神は、人間の考えが及ばないスケールの大きさで物事を動かす方だと信じます。決め付けたり、諦めたりせずに、ぜひ青山学院で神が皆さんに用意してくださっているお宝探しを楽しんでみてください。意外と思いがけないところで人生の宝が見つかるかもしれません。皆さんの青山学院での生活に、神の守りと導きが豊かにありますように！